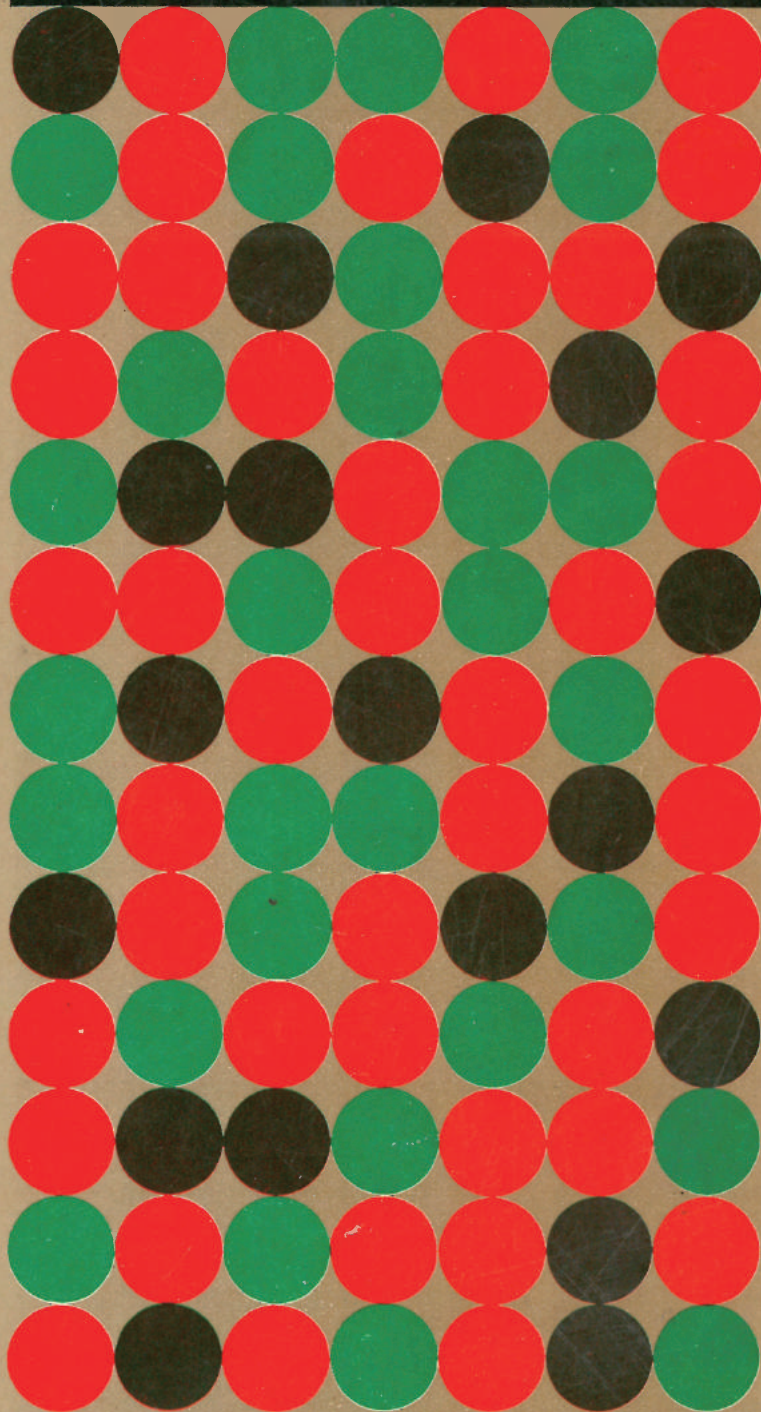


現代用語 の 基礎知識 1969

現代の鼓動を反射する新語・外来語年鑑



自由国民社・発行

日本の安全保障の仕組

についての問題用語

自衛隊の戦力の限界

現在、日本の安全を保障している仕組みは、軍事的には「日米安保条約」と「自衛のための防衛力」、つまり自衛隊とで構成されている。そして、日米安保条約で期待されている米国の軍事力の中には、①戦略核兵器体系のもつ核抑止力、②在日米軍や第七艦隊などの一般目的部隊、とが含まれる。そして大まかには、俗に「自衛隊は盾・米軍は槍」といわれるような関係にある。

国に対して武力攻撃が加えられた場合に国土を防衛する手段として武力を行使することは、憲法に違反しない（昭和二十九年十二月二十一日、政府統一解釈）とされている。

ここで「自衛」という言葉は、きわめて厳格に解釈されており、「自衛のための海外派兵」ということは考えられていないし、現に、昭和二十九年六月二日の参議院本会議では「海外派兵の禁止」が決議されている。

また、その実力についても、三十六年七月十八日に閣議決定された「第二次防衛力整備計画」（二次防）では、「日米安全保

障体制の下に、在来型兵器の使用による局地戦以下の侵略に対し、有効に対処しうる防衛体制の基盤を確立するため……」とされ、さらに、四十一年一月二十九日に閣議決定をみた三次防でも「通常兵器による局地戦以下の侵略事態に対し……」と、その「限度」は明らかにされている。つまり、自衛隊は、法的にも

また、その実力からいっても、日本の国土内で、通常兵器による局地戦以下に耐え得る能力しか保持してないのである。全面核戦争はもちろん、限定核戦争も、自衛隊にとっては対象とされていない。たとえば、国会の答弁でも「わが国の上空で侵略の抑止力として使用する戦闘爆撃機は保有できるが、長距離爆撃機は持てない」とされ、事実、三次防のFXの選定に当たって、米国の最新鋭機F-111は「攻撃的な要素が強い」として、当初から候補機にならなかった。

また、敵基地に対する攻撃も「誘導弾等による攻撃を受けて、これを防禦する手段がほかに全然ないというような場合、敵基地をたたくことも自衛権の範囲に入る」としながらも、「その危険があるからといって平生から他国を攻撃するような、攻撃的な脅威を与えるような兵器を持つていることは、憲法の趣旨とするところではない」（昭和三十四年三月十九日、政府統一解

釈）と、きびしい制約を与えている。

しかし、わが国の憲法の「戦争放棄」の宣言や、これらの国会答弁、統一解釈が、他国がわが国を攻撃するのを抑える手段となるわけではないし、また、陸海空合計二十七万の自衛隊と、国民総生産の1%という低い比率の防衛費でもって、外部からの侵略を防げるわけでもない。そこに日米安保条約の意味がある。

米国の核戦力の意味

日米安保条約、正式には「日本国とアメリカ合衆国との間の相互協力及び安全保障条約」は見逃されがちなことだが、安全保障だけでなく、両国の相互協力を約束している。その第二条では「締結国は、その国際経済政策におけるくい違いを除くことに努め、また両国の間の経済的協力を促進する」と、経済面での協力をうたっており、こ

れが、わが国の経済繁栄に資するところは少なくない。だが、ここでは、その安全保障の面を取り上げよう。

条約第五条では「各締約国は、日本国の施政の下にある領域における、いづれか一方に対する武力攻撃が、自国の平和及び安全を危うくするものであることを認め、自国の憲法上の規定及び手続に従って共通の危険に対処するよう行動することを宣言する。……」と取り決めている。

この規定により日本は、米国の巨大な軍事力を、日本の安全保障に利用し得るのである。

そのひとつは米国の核戦力である。日本は核兵器に関しては「製造せず、保有せず、持込まず」という**非核三原則**を保っている。一方、現在の世界が米ソの核抑止力の下にあること、また、近いうちに中国の核の脅威が現実のものとなることは明らかである。核兵器に関して全く無力な日本は、核の脅威に対しては、米国の核抑止力に頼らざるを得ない。

米国の戦略核戦力は、

ICBM 一〇五四

(ソ連 七二〇)

SLBM 六五六

(ソ連 三〇)
爆撃機 六九七
(ソ連 一五五)

弾頭数 四五〇〇
(ソ連 一〇〇〇)

〔注〕ICBM＝大陸間弾道弾、

SLBM＝潜水艦発射ミサ

イル。この数字はマクナマ

ラ前国防長官の年次報告に

よるもので、昭和四十二年

十月現在。

以上であるが、マクナマラ前国防長官によれば、「仮にソ連が一九七二年までの時期で、その全ミサイル力でわが戦略部隊を攻撃したとしても、わが攻撃力の二分の一は生き残ることができ、この生き残った核兵器の五分の一で、ソ連の都市人口の約三〇%、七三〇〇万人が死亡し、工業力の約二分の一を破壊することができ。また、中共に対しては五〇の都市の上で比較的少数の弾頭を爆発させることにより、都市人口の半数と工業力の二分の一以上を破壊できる」というほどに強力なものである。

この米国の核戦力の意味は、ソ連の認めるところでもある。一九六一年十月のソ連共産党大会の新綱領では「もしわれわれ

が原水爆で資本主義を破壊したとしても、その代わり、われわれが亡びたら、一体何をやることになるのか、一資本家の死が百万の労働者に値するとしたら、一体何をやることになるのか？ 原水爆の戦争では、勝利者もなければ、敗者もない、破壊された世界が残るだけである。」として、全面核戦争を起こしてはならないことを強く訴えている。そして、ソ連の核戦力もまた米国に対して同様の威力を持っている。

「マクナマラ前国防長官によれば、ソ連の先制攻撃を受けると米国人の五〇〇〇万以上が死亡し、米国が先制攻撃しても、ソ連の報復により二〇〇〇万人がいし一億人が死亡すると推定される」という。

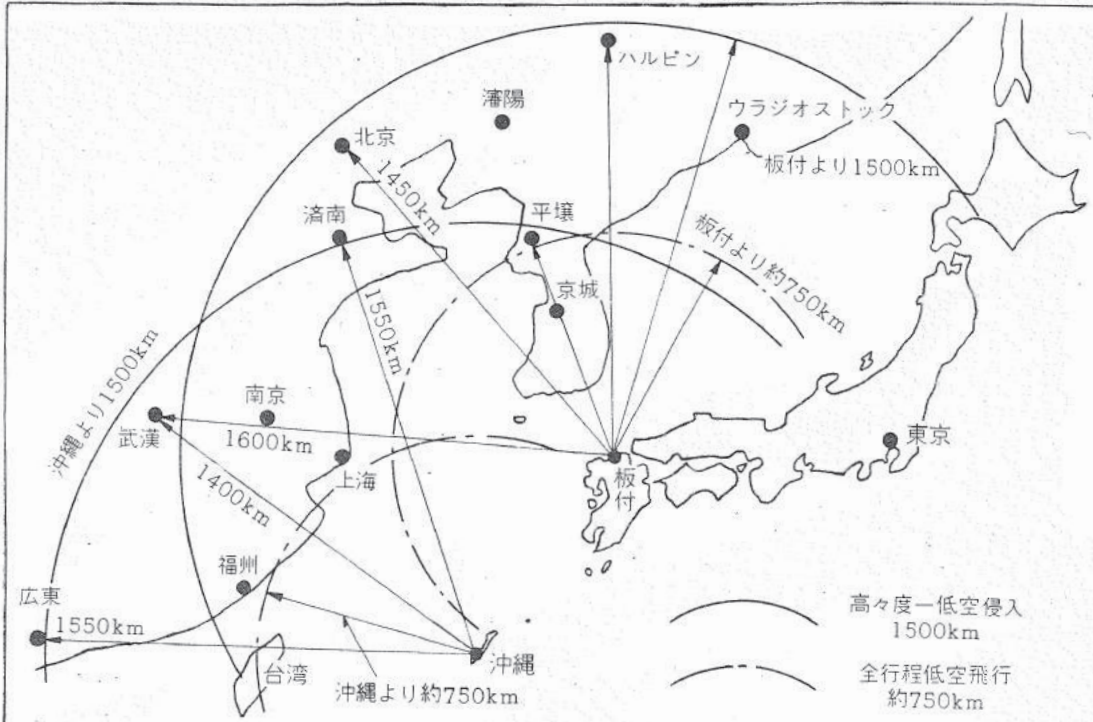
このような力関係、つまり核抑止力によって平和共存路線が維持されているのであり、日本の安全も、そのワクの中で保障されているわけである。しかし、この米国の核戦力は、恐らくは絶対使用されることのないものであろうから、いわゆる外部からの侵略に対しては、通常兵力が効果的な軍事力となるとい

在日米軍と第七艦隊の存在理由

日米安保条約の第六条「日本国の安全に寄与し、並びに極東における国際の平和及び安全の維持に寄与するため、アメリカ合衆国は、その陸軍、空軍及び海軍が日本国において施設及び区域を使用することが許される」との取り決めにより、米軍は日本に駐留している。その兵力は昭和四十二年十一月三十日現在、陸軍八三〇〇、海軍一万一四〇〇、空軍一万九六〇〇、総計三万九三〇〇である。二十八年までは二五万以上が駐留していたが、自衛隊の発足、その防衛力の充実とともに漸減し、三十五年ごろには四万五〇〇〇になった。

在日米軍の総司令部は、東京都府中市にあり、その司令官は、日本において米太平洋軍総司令部を代表する。在日米陸軍は、神奈川県座間司令部があるが、戦闘部隊は駐留しておらず、通信、調達、輸送、丘站などの後方関係部隊のみである。また、在日米海軍は神奈川県横須賀に司令部があり、横須賀、佐世保

F-105(戦闘爆撃機)行動半径

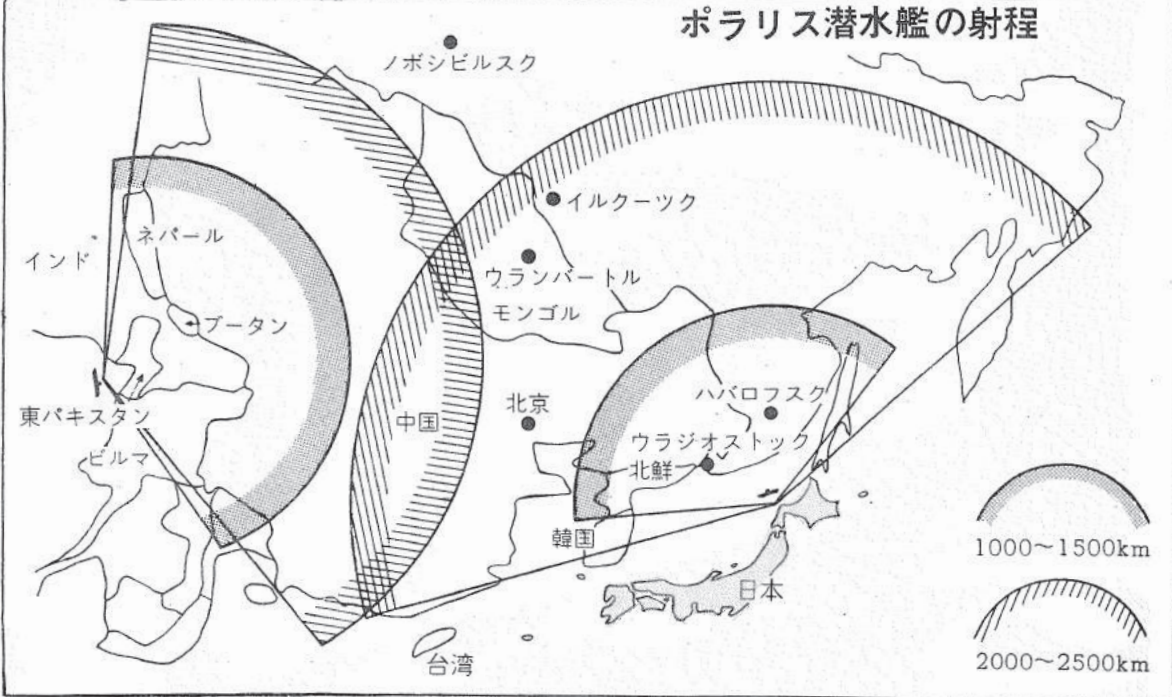


に各種施設関係部隊、岩国と厚木に航空基地を持つが、これも直接の戦闘部隊ではない。在日米軍のうち、戦闘力とし

て直ちに利用できるものは空軍部隊である。在日米空軍は司令部が府中にあり、第五空軍指揮下の第三九師団と第四一師団と

が、それぞれ三沢(青森県)と横田(東京都)に展開している。それぞれの編成はF四ファントム三個中隊、各五四機と偵察中

ポラリス潜水艦の射程



隊である。また、立川には第三一五航空師団があり、輸送機が配備されている。

在日米空軍の戦闘部隊は、文字通り「槍」の役割を持つものである。すなわち、航空自衛隊のF-104、F-86、F-86Dなどの航空部隊が迎撃部隊であるのに対して、米軍のF-4ファントムの航空部隊は、攻撃戦力となり得るのである。

なお、在日米軍司令部は三軍の共管事項についての調整はするが作戦の指揮は行なわず、各部隊は、それぞれハワイにある太平洋陸軍司令官、太平洋艦隊司令官、太平洋空軍司令官の指揮を直接受けている。

第七艦隊は通常編成で攻撃空母三隻を含む艦艇約一二五隻、航空機六五〇機、兵員六万四〇〇〇を持ち、西太平洋とインド洋、南は南水洋までを行動海域とする世界最大の機動部隊である。現在、ベトナム戦争のため兵力が増強され攻撃空母五を含めて総数一七五隻、航空機七〇〇機、兵員七万五〇〇〇に達している。攻撃空母一隻には戦闘機、偵察機など六〇ないし一〇〇機が積まれ、これと数隻の駆逐艦が一グループを作っている。

この攻撃空母グループが、現在は五グループあり、その三グループがベトナムに配置されている。

さらに、直接の打撃力として海兵隊部隊がある。海兵隊は現在ベトナムに投入されているが上陸作戦用のヘリ空母、輸送艦、揚陸支援艇、沿岸揚陸艇など二、四〇隻で編成されている。とくにヘリ空母は西太平洋の必要な地域に、一個大隊の海兵隊をいつでも効果的に上陸させる能力を持つといわれる。

このほか、駆逐艦、水上機母艦、陸、水上機を持つ対潜哨戒部隊（二部隊）、対潜空母一隻と駆逐艦六、七隻よりなる対潜掃討部隊、潜水艦部隊（七、八隻うち一、二隻が原子力潜水艦）、および後方支援部隊として工作艦、給糧艦、給油艦、給弾艦など三、四〇隻が行動している。

日本の安全保障の問題点

日本の安全保障を保障している以上のような仕組み、自衛隊プラス米軍勢力という構成には、問題点が少なくない。第一に、自衛隊と米軍との関係がいまい

なことがある。万一、直接侵略が起こり、これに対する作戦行動をとる場合、自衛隊と米軍はそれぞれの指揮系統で行動することになっており、この両者を合同する機関は設けられていないし、これまで、自衛隊と米軍当局とが、共同して防衛作戦を考えたこともない。

二次防では「おおむね一月分の弾薬等の備蓄に重点を置く」とされているが、**自衛隊の弾薬備蓄量は約七万ト**といわれる。

これは戦闘の規模にもよるが、一週間ないし一〇日分と考えられる。航空自衛隊の現有勢力は、F一〇四が二〇〇機、F八六Fが約二五〇機であるが、これもいつてみれば「着たきりスズメ」であり、損害を受けた場合、飛行機はもちろん、パイロットの補充も困難である。攻撃の規模にもよるが、恐らく一週間程度の戦闘能力しか期待できない。

とすれば、戦闘が一週間以上長びいた場合は、米軍の支援を受けなければならぬわけだが、いつ、どこに、どれくらい兵力を期待できるのか——こういうことは、一切、日米間では検討されていないのである。

海上の問題もある。日本の輸

入量は四十一年度で二億三〇〇〇万トに達しているが、海上自衛隊の船団護衛能力は、その十分の一にすぎない。具体的にいうと、米国向けと東南アジア方面向けに二、三〇隻の船団を組織し、これを八隻の護衛艦で護るのみ、これを各方面ひとつずつしか編成できない。しかも、その護衛海域は、せいぜいマージナル群島あたりまでである。その先を、第七艦隊が護衛してくれるのかどうか、また、輸入量が平時の十分の一になつては、日本は生きて行けないが、日本の船団護衛を第七艦隊が引き受けてくれるのか——このへんのところも、まったくの未知数なのである。

二番目の大きな問題点は、在日米軍基地が日本の安全保障するだけでなく、**極東の平和と安全のためにも使用できること**である。日米安保条約第六条によれば「極東における国際の平和及び安全の維持に寄与するため」米国は日本の基地を使用し得ることになっている。安保条約の「条約地域」は第五条で「日本政府の施政の下にある領域」とされており、これ以外の領域で、米国が武力攻撃を受けたと

きは、日本は相互防衛の義務を負わない。これは、米韓条約が「太平洋地域」を、また米華条約が「西太平洋地域」を条約地域としているのと著しく異なるところであり、米国議会内で「米国にとって不平等、不利益」と問題になった点でもある。第六条は、米国側の不利益を埋めるものであり、現実に、たとえば府中の第五空軍は、その第三一三、三一四師団を沖縄と韓国に展開するなど、在日米陸海空軍がつとめる極東米三軍の後方補給的な役割りはきわめて大きい。反面、「極東の範囲」という言葉が、安保論争の最大の問題点となったことで明らかのように、日本以外の地域での紛争に日本がまきこまれる危険がある」という議論が生まれてくる。在日米軍の配置、整備の変更や在日基地からの作戦戦闘行動にさいしては、日米間で「事前協議」をすることになっている。極東の平和と日本の安全は不可分であり、在日米軍基地がその抑止力としての効果からも極東、日本の安全に寄与していることは明らかであるが、国民の不安を除くうえからも「事前協議」の建前は明確に守られねばならない。

日常生活用語

（一九六九年版増補）

社会風俗

（昭和四十一年・一九六六年）

「黒い霧」事件

昭和四十年八月、自民党・田中彰治代議士の逮捕にはじまる、政界の一連の不祥事件。国有林の払下げ、共和製糖への融資、荒船運輸相の職権乱用、上林山防衛長官、松野農相、有田文相らの公私混淆、山口衆議院議長の不正金融機関への肩入れなど、政界、財界、官界に連なる職権乱用、汚職、利権あさはり、内閣の閣僚、政府与党の大物はおろか、野党の間から、さらには地方議会、自治体にまでおよび、「積年の病弊」がいきよに吹き出した。佐藤改造内閣は半年をへずに再改造に追い込まれ、十二月二十七日には衆議院もついに「黒い霧解散」をせざるを得なかった。政治姿勢をめぐる論議は連日、名言迷句を生み、国民は怒るより呆然とするのみだった。松本清張の小説「日本の黒い霧」から由来。

マッチ・ポンプ

「黒い霧」第一弾として、世の非難をあび

た自民党代議士・田中彰治事件の際にされた言葉。衆議院予算委員会、いわばマッチをすつて問題をあばき、次にはポンプを持っていつでもみけしをしてやる、といった不当な金品をめし上げるというアコギな利益追求方法。

バナコン

バナナ、ノリ、コンニャクの利権物資三つをひくくめるといういい方。昭和四十一年秋、バナナの輸入業者の大半が巨額の脱税をしていることが明るみに出て、業者と政治家のつながりが問題となった。一方、ノリ、コンニャクの業者にも黒い噂があり、不当な脱税とリベート、政治献金などとの関係が批判をあびた。

トッポジージョ

イタリア生まれのネズミのあやつり人形。「トッポ」とはイタリア語で「ネズミ」、「ジージョ」は愛称だから、さしずめ「ネズミのチュー太郎」といったニュアンス。オッチョコチョイの気取屋で、歌も踊りも自由自在の陽気な芸術家。生みの親は、マリア・ペレーゴ。一九五八年に考案

六三年十一月、米国のテレビに出演して爆発的な評判となった。日本には昭和四十一年八月、テレビに登場、人気を博した。人形使いが四人がかりであやつる。

万歳屋

百株前後の端株を持っていて、株主の権利を最大限に悪用する総会屋の一種。会社側から金をたんまりもらうと、株主総会などで「賛成」、「異議なし」、「万歳万歳」などと叫んで、会社側に有利な議案を通すために協力する。反対に金が少ないと、総会荒らしの専門グループと手を組んで、わざと議場を混乱させる。大阪では地方議員の海外視察の送迎や開店披露など、ご祝儀や記念品の出そうな席に必ず出張し、パット景気をつけるために、「バンザイ」をする万歳屋も現われた。

（昭和四十二年・一九六七年）

未来学

学問の一分野として独立してあるわけではないが未来をさまざまな角度から研究推論する学問の総称である。人間の脳が持ちうる生理学的能力



の限界、電子計算機の研究改良、人口論、言語学、都市工学、数学、人間の情緒の問題など、未開な分野だけに、いろいろとショッキングな内容が多い。個人的な机上の夢としてではなく、各分野の専門家が集まって研究する必要がで、昭和四十三年七月、日本未来学会が創立された。

蒸発

流行語としては、ある日突然に、なんの動機もなく人間が消えてしまう一種の現代病のこと。警察庁の統計によると七年間行方が知れず、失踪宣告を受けて、戸籍から抹殺された「蒸発した人間」は毎年五〇〇〇〜七〇〇〇人という。原因は精神病（例えば分裂症、テンカン、うつ病など）を持った人が、記憶喪失状態を起し、まったく縁のない土地で別の生活をはじめることになるようである。蒸発は計画的なものではないから、所持金も少ないのが特徴、後で見つかる例はまれである。社会の仕組みが複雑にいくんで、人間疎外が起こり、情緒的な飢餓状態が精神の錯乱をまね

くらしい。日本だけでなく世界の大都市にも多い現代の奇病である。

明治百年記念計画

政府は明治百年記念準備会議（主催佐藤首相）を中心に、明治百年にちなんだ各種の計画を進めている。記念式典は、歴史学的な諸説が入れ乱れた末、明治改元の日から百年目の昭和四十三年十月二十三日（水曜日）とした。当日は休日にはしないが、中央式典を政府、民間共催で実施するほか、都道府県、市町村、各学校でも行事をするよう措置する。記念公園の建設、百歳以上の高齢者の祝福など、記念計画行事が実施される。

青年の船

青年を乗せて東南アジア各国を巡航、現地青少年との交流を深める目的の船。政府が明治百年記念事業の一つとして計画したもの。最初は女子を乗せない予定だったが、反対の世論が高まったため、結局男子二〇〇人、女子八〇人と決まり、見本市船「さくら丸」で昭和四十三年一月、台湾、タイなど東南アジア七カ国を訪れた。団員は満一九歳以上二六歳未満の日本人、身体強健で中卒以上の英語能力あるものなどが

ら選ばれた。参加者は船内食費、出入国経費、旅行保険などの費用約八万円を負担しなければならない。

青年海外協力隊

「日本青年海外奉仕隊」の項参照。

明治村

名古屋から名鉄で一時間、日本ライン犬山入鹿湖畔に、明治の建物が数多く保存されている。五〇万平方尺の地に、重要文化財多数、聖ヨハネ教会堂、西郷従道邸、旧制四高校舍などの建物一六棟をはじめ、明治高官月給番付、日清日露戦役錦絵など数千点が保存されている。また、日本最古の京都市電が村内を走っている。設立は昭和四十年で名鉄の経営。

国葬

葬儀を国の名により行なうこと。昭和二十二年までは国葬令があり、天皇、皇后、皇太后、摂政の資格をもつ皇族のほか、天皇の特旨が下りた伊藤博文、山本五十六ら二〇人に行なわれていたが、新憲法施行以来、法制上の国葬はない。しかし戦後日本の「元老」的存在であった吉田茂元首相の四十二年十月の死去に際しては、「吉田学校」の直弟子の佐藤首相が国葬を取りしきった。

紙上結婚式

テレビ結婚式

といれかわりに、昭和四十二年三月、東北のある県紙が考え出したもので、新生活運動と新手の広告企画の一石二鳥を狙うもの。協賛を得たスポンサーの広告面の結婚の誓約を発表するだけで、実際の式や披露宴などはいっさい省略。親戚や知人にはその掲載紙を送って披露にかえる。三月十四日めでたく第一号が紙上で挙式し、読者の反響も上々であった。

交通一一〇番

昭和四十二年四月、東京警視庁にお目みえした交通通報用の電話番号。通報の対象は、信号無視、一時停止など、暴走車なら車を問わない。新入学シーズに、学校周辺の乗入れ規制地域に入ってくる大型車、女性ドライバー泣かせのダンプ、定期便などの暴走車には特に目を光らせ、覆面パトカー、白バイ、所轄所などと協力して、犯人検挙に全力をあげる。かりに犯人が否認しても二人の証言があれば検挙し、行政処分だけでなく刑事処分まで行なう。

パッケージ・ツアー

セット旅行、つまりカンツメ旅行のこと。旅行社は、列車からホテルまで、キッチンとセットされた

コースをいつも用意している。新婚旅行用の「寿セット」から「家族・グループセット」まで千差万別。電話やテレタイプで希望のコースを調べてくれる。ものぐさパパ向きの既製品旅行である。

モビレッジ (mobillage)

モービル（自動車）とビレッジ（村）を一つにした新語。車の乗入れを禁止しているキャンプ場が多いので、オーナー・ドライバーが自由にキャンプを張れるようにとできた。箱根芦ノ湖と千葉県鹿野山に本格的なものが出現した。テントをはじめコンロ、食器、炊飯具は持参する。車一台分の使用料は一〇〇〇円、テントを借りると六〇〇円。

万博・万国博

いずれも万国博覧会の略、別項参照。

パビリオン (pavilion)

園遊会とか運動会その他催物の大テント。競技場の観覧席、選手席、公園などの休憩場、病院の病棟などをいう。万国博会場内に設置された一つ一つの建て物もそう呼ばれる。大阪万国博が大衆の話題になるにつれて一般化した外来語。

エスコート・ガイド (escort guide)

万国博覧会の開催

準備期間中、万国博協会や会場に來訪する各国要人の接待係を兼ねた通訳のことで、東京オリピックのコンパニオンに当たる。家庭環境、留学経験、容姿などの選考基準で三一名を決定。

ダイダラザウルス (Dinosaurs) 大阪万国博覧会のための巨大なジェットコースターの名。コースの長さは、八・四キロ、総工費約八億円。一時間に五〇〇〇人の客を乗せて会場いっばいに走りまわる。完成すればもちろん世界最大のジェットコースターとなる。名前の由来は、静岡、山梨県地方に伝わる民話「巨人ダイダラボッチ」(富士五湖はこの巨人の足跡に水がたまつたものという)のダイダラとザウルス(恐竜)とを結びつけたもの。

ガメラ、ギララ、ギャオス ゴジラ、ラドン、モスラなどからはじまった一連の怪獣の名。昭和四十二年にこの種の怪獣は約一二〇匹、主に映画やテレビに登場して怪獣ブームをまきおこした。もとをただせば、東宝の特撮監督として名をはせた円谷英二がつくり出したもの。一般的に体が巨大で、放射能、殺

人光線、電磁波などの超能力を持つている。

爆破狂 火薬類やダイナマイトなどの爆発物を使って、交通機関や公衆の建物を爆破し、快感を味わう異常性格者。犯罪学ではこれを愉快犯と呼ぶ。多くは精神異常者か変質者のしわざ。周到的な準備と科学的な知識を持ち、公衆の中に溶け込んでいるので、検挙はなかなか困難であり、しかも連鎖反応的に次々に犯罪が重ねられるので始末が悪い。

アナーキスト・クラブ

無政府主義者のクラブ。アナーキズムの思想は以前からあるが、昭和四十二年に新聞をにぎわしたのは、日本の若いアナーキストと称する連中が、ベトナム特需で受けにいらしている、東京や名古屋の軍用物資工場におし入り、乱暴を働らいたことである。大学生を中心にする数人のグループで、組織的にいくつかの工場をおそう計画をたてていた。

モス四世号

一一九日かかって大西洋、インド洋、太平洋を越え世界一周に成功した長さ一六呎のヨット、ジプシー・モス四世号(Gypsy Moss IV)。操

縦者は英人サー・フランシス・チチエスター(六五歳)。一九六六年八月二十七日、英国プリマス港を出発、シドニーに一度停泊しただけで、ケープホーンを回り、翌六七年五月二十八日プリマスに帰港した。走破した総航行距離は約四万五六〇〇キロ。停泊一カ所だけの世界一周ヨット走破では新記録である。

コラーサ号

大西、太平洋を横断した鹿島郁夫のヨットの愛称。大西洋を横断したのは一世号、それで太平洋を横断しようとしたが、座礁で破損したため二世号を建造、昭和四十二年七月十三日ロサンゼルス横浜間を一〇一日で走破した。「コラーサ」は「やっこらさ」からとった俗称で二世号の正式名は、「Tan・J・O・G」つまり五呎、小型外洋帆走艇。通称ワンゲル型。横山晃の設計で、全長五呎幅二呎、積載重量二八〇キロ。艇自体の重量は六〇〇キロという小さい艇。堀江謙一の太平洋横断につぐ二度目の快挙。

イエイエ族

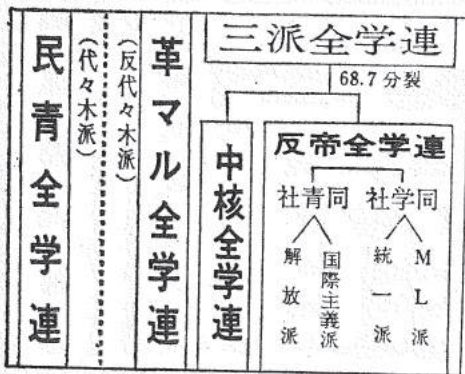
欧州、特にパリで勢力のある一群の芸術家の卵たち。髪を女の子のように肩までのぼし、あごひげをたくわえている。性の差異を超越し、

セックスの開放をさげんではないが、男性としての性の弱者とも見なされる。異端児的若者というとらえ方から、最近では、新しい時代の風俗を造り出す世代として関心をよんでいる。

ヒッピー族

(hippie) ジャズ用語のヒップ(hip)調子を合わせた。が語源だとも、ヒップド(hipped)魅せられた、熱中した)からきているとも、またハッピー(happy)幸福)が崩れたことばともいう。いずれにしても「ヒップ野郎」、つまりヒップぶる奴という意味をもっていられる。米国の若者達に多く見られる一九六七年型生熊の一つであるが、その特徴は、髪の毛を男女とも肩まで垂らし、女たちは膝上二〇センチのスカート、ブーツをはくもの、はだしのもの、ひげを生やしたものなどいろいろ。「自然に返れ」というのが主張で、金を使わずに楽しみ、月並みな社会生活を意識して避ける態度をとっている。時には既成の規格に対して大衆行動もとる。これをbe・inと彼らは呼んでいる。六八年になって、米国ではヒッピーの政治的前衛をイッピー(Young international partyの略)とよぶようになった

〈68年・分裂後の全学連組織〉



全学連三派 全学連(別項参照)は結成以来二〇年を経るが、完全な一本化は初めの二年間だけ。安保闘争以後は分裂がさらに激しく、五流一三派を数える時期もあった。昭和四十二年十月八日の羽田事件当時は、諸派は、大きく三派にまとまっており、それぞれ全学連の本家を名のっていた。すなわち、日共系と革マル系(日本マルクス主義学生同盟革マル派)と三派連合の三つで、後者二つは反日共系である。三派連合は社会学同(日本社会主義学生同盟)、社青同(日本社会主義青年同盟解放派)、マル学同中核派(日本マルクス主義学生同盟中核派)が大団結したもので最も戦闘的である。自治会活

動と政治闘争を日常とする活動家の多い三派系、革マル系が、羽田では激しいデモで機動隊と衝突、中核派に属する京大学生・山崎博昭が死亡した。その後佐世保、王子、成田など現地闘争、街頭闘争に力点をおき、機動隊ばかりでなく他派の学友とも衝突、革命闘士を鍛えて労働戦線に送りこむことを主眼としている。ヘルメット、角棒などで武装し、ゲバルト(暴力)の特訓もしている。

原宿族 東京の原宿付近に、夜になるとなんとなく集まってくる若い男女のこと、道路も広く、マンションや高級商店、スナック・バーが並び、一種の日本ばなれした風景にひかれて、スポーツ・カー、オートバイなどを消音装置をはずして走りまくり、地元のこわいおばさんたちのひんしゆくを買った。がいて中流以上の家庭の子弟が多い。かつてさわがれた六本木族が、駐車不便な六本木から移動したともいわれる。

フーテン族 東京新宿を中心に、昭和四十二年夏の話題をさらった若ものたち、夕方、どこからともなく乞食然として現われ、駅構内の芝生をわれらの

グリーン・ハウスと称してたむろし、せわしげな往来人をぼんやり眺め、小金をせびり、奇声を発する。社会的な反抗・怒り、あるいは既成モラルへの破壊意識など、積極的な言動はなく「まさに風のまにまに転ずる」風転ぶ。無作為の体制順応者だとか、明日の余暇社会の若もの、の在り方を先どりしたものだとか、彼らを見にいづる者の方がやましかった。

アンデラ アンダーグラウンド(under-ground)を略した和製英語。地下、陽の届かないところ、公でないところで作られ発表される芸術につけられる形容詞である。だが、映画にはじまって演劇、美術、舞踊からアンデラ族まで生まれた。本来の発生時点には、商業主義に反抗したり、新しい試みをやったり、時には政治的な理由のために、同好の士が地下で活動したものであったのだが、現実には正体不明なものが多い。

マクルーハン理論 カナダのトロント大学英文学教授H・W・マクルーハンの唱える独特な「ホット(Hot)熱い」と「クール(Cool)涼しい」に分類したコミュニケーション理論。一

九六五年に出版した彼の著書「人間拡張の原理」が、六七年わが国で翻訳されて以来、マスコミの話題をにぎわせた。今日のようなテレビ時代には、人間があらゆる感覚をフルに働かせて生活するが、テレビ時代以前の人間は、五感のうち視覚だけを働かせる活字生活をしてきた。前者をクール、後者をホットと区分する。だからテレビ時代の青少年は、視覚一本ヤリのおとなたちと違い、原始人に近い全感覚的生活をする、というのである。

ケロヨン 児童人形劇団「木馬座」が公演して大ヒットした縫いぐるみの人形。蛙のかわさうをした愛敬のある人形で、バハハイ(さよなら)といった独特の言葉を使う。テレビでも連続放送し、武道館に溢れるほどの母子連れを集める人気ぶり。藤城清治の作。

独婦連 独身婦人連盟のこと。外交官令嬢の焼殺事件でハイ・ミス(高齡独身女性)の問題がクローズアップされたが、独婦連のモットーは女は「いつも適齢期」。昭和四十二年秋結成。
戦無派 戦後に生まれ、多感な少年、少女時代はすでに戦

後の安定期に入っていた、いわば戦争をまったく知らない世代、戦争体験のない世代をいう。昭和四十二年の大学最上級生は、二十一年、二十二年生まれの学生。このへんから以降が、純粹に戦無派ということになる。

ツーカー族 ツーといえはカー、のツーカでなく、「いいカーチャン」といいカー(自動車)を人生の二大目標にしている最近の若い世代の一部を指す。この種のことを女性側にいわせれば「家つき、カーつき、ババー抜き」となる。

〔昭和四十三年・一九六八年〕

サイケデリック (psychedelic) 略してサイケ。「幻覚的な」といった意味。ギリシャ語の精神 (Psyche) を意味するサイケと、英語の繊細・美味を意味するデリカシー (delicacy) を結んで造語したものという。LSDなどの幻覚剤をのんで生ずる陶酔と幻覚の状態、あるいは感覚体験をいう。この状態を絵画化したり、また極彩色のポスターや文字の調子に応用し、さらには服飾やヌードに絵の具を塗りつけたりする若い人たちの街頭風俗を含め、サイケ調、サイケ族などの言葉も登場した。

昭和元祿 戦後二三年、打ちつづいた太平ムードを指していう言葉。太平安逸、奢侈遊惰な元祿時代の再現とばかりに、にが顔の自民党幹事長福田赳夫の言葉という。たしかに、明治このかた二〇年余も戦争なしに平和を満喫したことはなかったはず。この太平ムードに日通事件から、フーテン・アングラ族の横行まで、まことに結構な時代ではある。

新3C カー、カラーテレビ、クーラーの「3C」の上をいくコッテイジ (cottage 別荘)、セントラル・ヒーティング (central heating 家ぐるみ暖冷房)、クッカー (cooker 電子レンジ) の三種の神器をさす。それぞれのメーカーが新しい需要をつくりだすのにキャッチ・フレーズとし、新しい話題を求めると一部マスコミがこれにのって記事見出しなどに使う。

ピーコック革命 地味なダークスーツに白ワイシャツ、ネクタイというドブねずみルック (花森安治) に対して、色もののシャツを着せようという商戦。ピーコック (peacock) は「雄のくじゃく」だが、「見え坊」の意味もある。女のおしゃれにつ

いて、本当に自分の力に自信のあるサラリーマンは自己主張の手段として必ず自立つおしゃれをするはず (右津謙介) という意見である。

構造汚職 汚職が特定の少数者によって起こされるのではなく、政治、行政、産業、軍事など社会構造の結びつき関係自体が起す汚職。室伏哲郎の造語。使途不明金五億円を出し、自民、社会両党国会議員からも被疑者を出した日通事件もその一つにあげられる。

安保公害 ベトナム戦争の基地化した日本で、安保条約が逆に国民の日常生活の安全をおびやかしている諸現象をさす。過密状態の大都市周辺に日本ほど外国を起す数多く持つ国はなく、米軍機の墜落 (福岡)、放射能異変 (佐世保)、弾薬輸送 (呉)、基地周辺の騒音 (横田) や風紀犯罪 (横須賀)、電波障害 (横浜)、その他、米軍王子病院へのマラリヤ患者収容や米軍用航空燃料の鉄道輸送など、安保公害はベトナム戦争の激化とともに急増し、反対市民運動が各地で起こっている。安保条約は一応日米対等をタテマエとしているが、現行協定による米軍の広範多岐

にわたる権能は旧行政協定と実質上ほとんど変わらず、政府の対米姿勢を改めるなど検討を望む声は多い。

黄害 (黄禍) 走る列車がもたらす糞 (ふん) 尿禍。国鉄各線の列車は東海道新幹線を除いて糞尿タンクをもたず、走る勢いにかまかせて、まき散らしている。都市公害、安保公害について登場した新しい黄害に、ようやく目が向けられるようになったものの、予算化はまだ先のこと、当分「黄金の国」はつづきそうである。

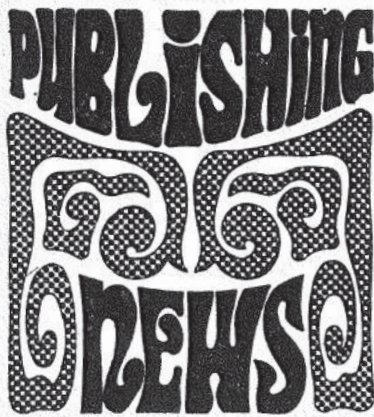
金平連 ダイナマイトをかざして人質をとじこめたライフル男金嬉老の事件 (昭和四十三年二月) で、人種偏見をなくそうなど弁護を買って出る若い文化人グループが出現。これはベトナム戦争における「ベ平連」のように、弱いチームへの応援というマスコミ時代特有の心理があり、少数者でも捨身の決意と戦術をもってすれば、数や武器の上では圧倒的に強い相手の盲点をついて力を得ることができるというミニ・クーデターの可自性を暗示するという。

自殺白書 米国公衆衛生局がまとめたもので、米国では二

○分に一人が自殺、有色人種より白人人種の方が自殺率が高く、離婚した男性の方が同じ女性よりも三倍も死んでいるという。また、時期的には三月から四月にかけて一番多く、米国でも税金の申告時だけに、悩みはどこでも同じらしい。

ゲバ棒 三派全学連が闘争に使用する角材。第一次羽田事件のころは規格品の新しいものを使っていたが、闘争が相いってくると、資金的に苦しくなったのか、机の脚や建設現場からもち出したパイプ、棒切れなどをを使うようになった。「ゲバ」はゲバルト(Gewalt: 実力行使・暴力)の意味。

ノンポリ学生 政治に無關心ないし、直接的な学生運動、政治運動に関与しない学生のこ



〈サイケ調文字〉

と。ノン・ポリティカル(non political)を略した学生語。

全日本学生国防会議

反共的な学生組織。各大学の国防部的な右翼系サークルが中心になって昭和四十三年春結成された。一九七〇年の安保再検討期をめざし、全学連と対抗しうる「スチューデント・パワー」の実力養成をねらったもの。

五月病

狭き門を突破して合格通知を受取った時の感度もうすれる五月——その連休あけあたりから勉強への興味を失ってすっかり無気力になってしまふ大学生の状態をさす。症状は「第三教室」、つまりマージャン屋やデモにくり出したりする。激しい入試競争、大教室でのマイクの講義によるマスプロ教育など、その原因は根が深い。

ローレル指数

体重を身長(センチメートル)の三乗で割り一万倍したものを一六〇以上が肥満児で運動不足や学業偏重などが原因で、肉体的にはもちろん、精神的にも情緒不安定、内向的性格の傾向がある。児童一〇〇人当たりの肥満児の数を肥満率というが、昭和四十三年の東京都学校保健会の調査によれば、都心の千代田区では男子五%、女子三%に

達している。

新築鬱(うつ)病

長年の念願がかなって、やっとわが家を手に入れた途端、頭がおかしくなるという住宅精神病。名づけ親は東大神経科で、たとえば鼻先にぶら下げられたニンジン懸命に追っていた馬が、ニンジンを食べってしまった状態のようなもの。

ポップ(pop)

語源からいって意味は、①ポピュラー・ミュージック(popular music)の頭三字からとったとする「流行する、共通の」、②ポップ・コーン(pop corn)のはじけるから「若さ、明るさ、軽やかさ、気どらない」、③ポップ・アート(pop-art 別項参照)から「いささか気まぐれな、即興的な、行動力に溢れた」などを総合し、はずむようなバ行の音感が好まれる。これをコマージュシャルなどにして、これを流行語になった言葉として、ポップ・アップ(pop-up)、ピンク・ポップ(pink-pop)、ポップ・ショッピング(pop-shopping)などがある。

タレント候補

タレントとは、才能あるいは才能ある人の意味、転じて放送出演者となったが、この場合、マスコミに乗

って広く顔が知れ渡った「知名度」を武器に選挙に立候補するものをさす。昭和三十七年テレビ「私の秘密」の人気をバックに参議院に最高点当選した藤原あきにつづいて、四十三年には石原慎太郎・青島幸男・今東光・大松博文・横山ノックが当選、五人の得票合計が六七二万票、全国区最下位当選一三人分にあたり、タレント候補転じてタレント議員となるタレントぶりである。

山谷解放委員会

例年夏の東京山谷の労働者騒動は「暑い夏」と「巨人の負けた日」に起こるといふ説があるが、昭和四十三年には、その裏側に組織者たちの手による演出があるとみられた。その組織が山谷解放委員会と山谷地域労働組合で、前者は四十二年一月結成、会員約一〇人で反日共系、後者はもとの山谷労働協議会で会員約五〇人、日共グループで、ここにも、日共対反日共の抗争がある。

カンオケ型・凶器型

日本の交通事故は、車が歩行者をはねる凶器型が多かったが、休日にかぎっては車どうしの衝突による事故死、つまりカンオケ型

が増えている（昭和四十二年五月の連休の車対車の事故二五・三%が、四十三年は三五%）。地方の道路整備がすすんできて、時速六〇キロの壁を破るのがハイウェー時代だとされ、これが死人につながるボーダーラインでもある。

中央分離帯 高速道路の条件として、①往復交通の分離、②他の道路とは立体交差、③出入りはインターチェンジを利用、の三つを最低限備えなければならぬとされているが、このうち①をみたまものが中央分離帯。東名高速道路（昭和四十三年四月に一部開通）は、高架・橋部分でガードレール、土工部分では盛り土の分離帯ができてい

る。高架のところでは、分離帯に幅一、二メートルのすき間が空いており、開通直後にドライバールがあらわてて避難、高架下に落ちる事件が頻りにあった。

車紋 交通事故現場にのこるブレーキをかけたときのタイヤのあと。引き逃げ事件などの場合、ナンバー、ボデーの傷などと同様、重要な手がかりになるもの。指紋、声紋にかけた造語だが、それほど科学的根拠はない。

コンバット・チーム 航空

機・列車などの事故や爆発・爆破事件を捜査するため、警視庁刑事部に新設したもので、専門的な知識をもった特殊事件捜査班の愛称。少数であらゆる困難を乗り越え、なんでもやっつけてくれるテレビ番組「コンバット」のサングラス分隊にちなんでつけられた。爆破、爆発、列車事故。

航空機事故の三部門八三人でスタート、それぞれに学者、専門家が顧問役で加わっている。

文化庁 文部省の文化局と文化財保護委員会が統合して昭和四十三年六月に誕生した。初代長官には、佐藤栄作首相のお声がかかりで、作家の今日出海が就任した。

日本文化会議 責任ある自由な立場に立った文化人が同志的な結集と合意を急ぐ必要がある、という趣旨に賛成する学者、作家、評論家など六二名で組織した文化人グループ。昭和四十三年六月十日に発足した。理事長は田中美知太郎（京大名誉教授）、左右の激しい思想的対立や伝統との断絶による文化的な混乱のなかで正しい世論の形成を目的としている。

郵便番号 郵便物のあて先を書く算用数字の番号で、自動

読み取り機械に読み取らせる。昭和四十三年七月から実施した。熟練者でさえ一時間三〇〇〇通だが、機械は二万二〇〇〇通、毎秒六通のスピードで区分けする。

通告センター 交通違反事故の罰金手続きを簡素化する目的で昭和四十三年七月から実施された交通反則通告制度によると、違反を起こした場合、その場で罰金額がわかり、銀行や郵便局の窓口で払いこめばOKなのだが、事情があつて払えない人のための事情聴取の場が、通告センターである。

オーブン・プログラマー 自分の担当する業務をみずから電子計算機を使って処理すること。まず社員が電子計算機の知識を身につけ、初級程度の筆記試験を受け各自の仕事で電子計算機にかけた場合どうなるかをチェックする。学習研究社が昭和四十三年七月から実施した。

ドル建て旅行小切手 日本人が海外旅行する際、従来は米国の銀行の小切手を持参していたが、昭和四十三年八月からは東京銀行が日本の銀行としてはじめて発行。一〇ドル、二〇ドル、五〇ドル、一〇〇ドルの四種類で、

どれも表に吉祥天女像をデザインしている。

妖怪マンガ 怪獣ブームのあとをうけて出現した子どもむけ妖怪ものアニメーション・マンガ。ゲゲゲの鬼太郎（ラジテレビ）、怪物くん（TBS）、河童の三平（NET）、バンパイヤ（フジテレビ）など。

トロ派・ラリ派 若い世代のアンングラ族のうち、お酒をガブ飲みして「トロっとした目をしてる」トロ派と、LSDなど薬で「ラリってる」ラリ派がある。いずれも、サイケなムードに、うまくロレッツも回らず、ラリルレロ族である。

ハレンチ 「破廉恥」ではなく、しいて言えば「イカス・カッコイイ・ニグイ」といった意味。アンングラ族とかサイケ族が言い出したあと、化粧品会社が「ハレンチ・セール」とコマースャルに使い出すなど若モノの市民権を得た。

イザナギ景気 昭和三十二年前後の神武景気、三十六年前後の岩戸景気につづく、四十三年の好景気をいったもの。株価は七年ぶりの高値を示し、九月には東証ダウ平均株価は史上最高の一八三九円となった。